日本菌学会ニュースレター

Newsletter of the Mycological Society of Japan

2025-2（3月）

目次

紹　　介：アメリカで博士をとる―コーネル大学には敵わない？―
アイビーリーグ　コーネル大学大学院　植物病理学科菌学専攻でサバイバル
「博士Ph.D.」取得編……井上　哲　1
掲　示　板：2025年度日本菌学会菌類観察会（静岡フォーレ・仮）のお知らせ‥山田明義　3
学会記事：理事会報告……4
学会記事：理事会報告……4
学会記事：会員消息……6

Fomitiporia punctata

*Fomitiporia punctata*はヒダナシタケ科に属する，いわゆる多孔菌類と呼ばれる木材腐朽菌で，写真のように基質に貼りつくような形で茶色のキノコを作ります．国内では冷温帯を中心に分布することが知られており，特にサクラ類に発生している様子がよく観察されます．本種をサクラ類の一種であるオオヤマザクラに人工的に接種したところ，立木に腐朽を引き起こし，その立木を枯らす場合もあることが報告されており，サクラ類の衰退に関わる可能性があります．また，チャアナタケモドキ（*Fomitiporia torreyae*）とともに，ナシ葉の奇形や枝枯れ，症状が進行すると樹全体を枯らしてしまうナシ萎縮病の病原菌のひとつであることが判明しています．実は本種とチャアナタケモドキは形態的に類似しており，近年まで両種は混同されていました．分類学的整理が行われるまでは，チャアナタケモドキの学名として*F. punctata*があてられていたため，現在のところ本種に対する和名がありません．本種のように和名が提唱されていない種について，どのような和名がふさわしいのか，色々考えを巡らせるのもキノコの楽しみ方のひとつかもしれません．

鳥居正人（森林総合研究所東北支所）

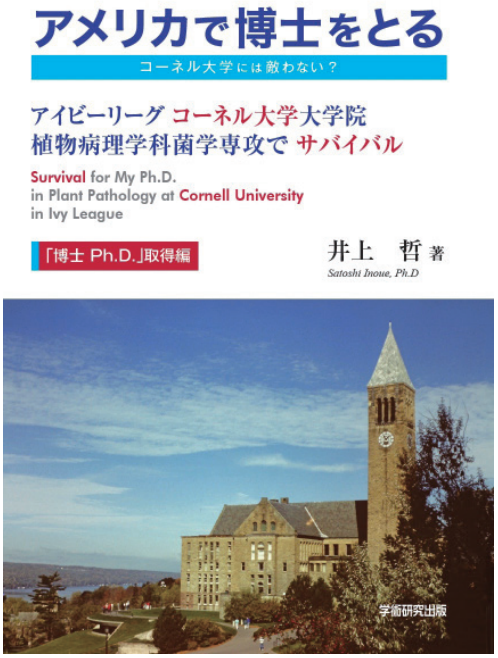
紹介

アメリカで博士をとる
―コーネル大学には敵わない？―
アイビーリーグ　コーネル大学大学院　植物病理学科菌学専攻でサバイバル　「博士 Ph.D.」取得編

著：井上哲　Ph.D.

学術研究出版，2024 年 12 月 25 日
270 pp.　2,300 円＋税
ISBN: 978-4911008928

BY-NC



私が上梓した著作を紹介します．元高校生物教師のコーネル大学大学院留学体験記第 2 弾です．本著は，2015 年に上梓した『アイビー・リーグ　コーネル大学大学院　植物病理学科菌学専攻でサバイバル　「理学修士」取得編』の続編になります．前著では，大学卒業後，高校の生物教師をしていた時のアメリカの大学院留学準備から，コーネル大学大学院で M.S. 理学修士を取得するまで，1990 年から 1993 年の出来事を書きました．本著では，1993 年に理学修士を取得し，Ph.D. 博士課程へ進学して 1997 年に Ph.D. 博士を取得するまでを書きました．

2023 年に NHK 連続テレビ小説『らんまん』が放映され，俳優要潤氏が演じる帝国大学植物学教室の田邊彰久教授は「コーネル大学で植物学を修めて来た」と，「コーネル大学」という名前が一般の人たちに知られました．この田邊教授とは，実際に 1876 年にコーネル大学を卒業し，東京博物館（現・国立科学博物館）の館長，1877 年から東京大学理学部生物学科の初代教授になられた矢田部良吉教授がモデルになっています．アメリカ合衆国ニューヨーク州イサカ市にあるコーネル大学は，アメリカ東部の名門大学アイビーリーグの一つで，農学および自然科学系が強い大学です．菌学では，最初の菌学者アトキンソン教授，アメリカ菌学会の創設者の一人フィッツパトリック教授，植物病理学科の初代学科長ウェッツェル教授，コーフ教授を輩出，現在は私の同級生ホッジ教授が菌学を教えています．

コーネル大学大学院で菌学を専攻する場合には，植物病理学科に入り，菌学，植物病理学，分子生物学的植物病理学の大きく 3 つの専攻の中から専攻を選ぶことになります．私が修士課程に入学したときに携わった研究が『オオムギにおける子葉鞘細胞へのうどんこ病菌の侵入に関しての研究』で，主査のエイスト教授に師事し菌学専攻としました．菌学と言っても細胞学の教授でしたので，顕微鏡を扱う研究に携わりました．副専攻は分子生物学的植物病理学で，副査は，当時糸状菌の形質転換では先駆者だったヨーダー教授に師事しました．修士取得までに，植物病理学科の大学院生が履修しなければならないコースワークの単位と，盤菌類の分類の大家コーフ教授の担当する PP739「菌学特論」など菌学主専攻に必要な単位，分子生物学的植物病理学副専攻に必要な単位は全て取得しました．

私が理学修士を取得した時に，主査のエイスト教授と副査のヨーダー教授が共同で National Science Fund（NSF）に提出したグラント・プロポーザル（科学研究助成金）が通り，巨額の助成金を得ることができました．アメリカの科学研究助成金にはポス・ドクと Research Assistant（RA）となる大学院生を雇う給与の予算も入っています．エイスト教授の誘いで，この科学研究費が下りた『糸状菌の細胞骨格を形成する微小管の上を動く分子モーターの研究』プロジェクトに RA として参画することになりました．授業料は Teaching Assistant（TA）をすることにより免除されます．これが本著の始まりです．

博士課程ではもう1つの副専攻が必要で，細胞生物学を副専攻として，副査には酵母菌の細胞骨格の研究をされているハッファカー教授に師事しました．細胞生物学を専攻するのに必要なコースワークの単位を取得するのは大変でした．細胞生物学関連の大学院生向けのコースワークは，"Pre Med" という，4年生大学を優秀な成績で卒業する医学系大学院志願者も履修しています．彼らは驚くほど優秀で，高い "Graduate Point Average (GPA)" 成績加重平均値をとっています．大学院生のコースワークの単位の取得は "A-average" と言って，各コースワークの "A"「100点満点法で80点」以上の成績を維持しなければ "Kick out"「放校」になります．

菌学関連の出来事では，菌類分類学のコーフ教授が退官，退官記念のフォーレイ．1994年にバンクーバーで開催された国際菌学会などの出来事．私的には，1995年にコーネル大学内のセージ・チャペルで結婚，コーフ教授の別宅のアパートに引っ越し，1997年には長男が誕生，学位を取得して帰国と人生のビッグイベントをコーネル大学で経験しました．

アメリカのPh.D. 博士課程で最も難しいのは，コーネル大学大学院では「A Exam」となっているPh.D. Candidacy Exam に合格してPh.D. Candidate（博士候補生）になることです．博士課程の1つのクライマックスです．この試験に合格すれば，「あとは論文を提出するだけ」，"All But Thesis (ABT)" とか "All But Dissertation (ABD)" と呼ばれます．なかなか体験できないコーネル大学大学院のPh.D. 博士課程の大学院生の生活を本著で読んでいただき，アメリカの大学院への留学をお考えの方の一助になれば幸いです．

書店でも注文はできますが，Amazon での購入が便利です．電子書籍版もあります．

井上　哲
E-mail: si12atcornell@gmail.com

掲示板

2025 年度 日本菌学会菌類観察会（静岡フォーレ）のお知らせ

山田明義（実行委員長）

BY-NC

2025 年度の日本菌学会菌類観察会（静岡フォーレ･仮）を，下記の通り実施予定です．観察地は静岡県立森林公園で浜松市街の北部に位置し，天然のアカマツ林を主体とした豊かな自然に恵まれた公園です. 森林内には温帯･暖帯の特徴を示す 1,000 種類の以上の植物が確認され，きのこも早春から晩秋まで多くの種類が発生します．静岡木の子の会では毎年観察会を実施していますが地形に変化があるため晴天続きでも多くのきのこが確認されています．同定会場兼宿泊施設は公園内にあり，園内は散策路が整備され安全に効率よく散策できます.

記

1. **開催日：**2025 年 9 月 27 日（土）～ 28 日（日）
2. **観察地：**静岡県立森林公園
3. **同定会場：**森の家（兼宿泊施設・森林公園内）
4. **募集人数：**80 名程度
5. **日程（予定）：**

9 月 27 日（土）

13:00 ～　参加者受付
14:00 ～　講演会・オリエンテーション
18:00 ～　夕食
19:00 ～　交流会

9 月 28 日（日）

9:00　採集地へ出発
12:30 ～　標本の仕分け・同定作業
15:00　講評
16:45　閉会式

6. **参加費：**20,000 円前後
7. **申込詳細：**
詳しい内容及び参加募集は，日本菌学会会報第 66 巻第 1 号（5 月発行）会員メーリングリスト及び日本菌学会 HP（5 月掲載予定）にて案内を行います.
8. **共催団体：**菌類懇話会，静岡木の子の会
9. **注意事項：**
1）日帰り参加の方（森の家に宿泊しない方）は二日目は昼食・飲み物を各自ご持参ください.
2）申込先は旅行会社になります．キャンセルは委託先旅行会社のキャンセルポリシーに従っていただきます.
10. **問い合わせ先：**
山田 明義（akiyosh@shinshu-u.ac.jp）
平野 達也（jushou-kai@nifty.com）
野村 千枝（onifusubephar@gmail.com）

山田　明義（信州大学）
E-mail: akiyosh@shinshu-u.ac.jp

4 ～ 6 ページは『会員限定記事（印刷版限定）』

日本菌学会ニュースレター 2025-2（3 月）

日本菌学会ニュースレターは年 4 号発行され，学会会員と賛助会員まで送付されます．発行部数は 1,300 部です．また，常時投稿記事を募集しております．ご意見，ご不明の点などございましたら下記の編集委員までご連絡下さい．

日本菌学会ニュースレター編集委員長（2023–2024 年度）
小泉敬彦　東京農業大学
tk208124@nodai.ac.jp

同編集委員
牛島秀爾　日本きのこセンター菌蕈研究所
kin-ushis@infosakyu.ne.jp
北出雄生　森林総合研究所九州支所
y.kitade3335@gmail.com
服部友香子　森林総合研究所
hattori31@ffpri.affrc.go.jp
蓑島綾華　神奈川県農業技術センター
ayakaminoshima45@gmail.com
吉田裕史　奈良先端科学技術大学院大学
yoshida.hiroshi@naist.ac.jp

一般社団法人日本菌学会会長（2023–2024 年度）
細矢　剛（国立科学博物館）
〒 305-0005　茨城県つくば市天久保 4-1-1

副会長
玉井　裕（北海道大学）

理事
折原貴道（庶務担当；神奈川県立生命の星・地球博物館）
清水公徳（編集委員長；東京理科大学）
白水　貴（広報・企画・教育・普及 [HP] 担当；三重大学）
辻田有紀（庶務担当；佐賀大学）
出川洋介（広報・企画・教育・普及担当；筑波大学）
平野達也（国内集会担当；日本樹木医会）
廣岡裕吏（国際集会担当；法政大学）
星野　保（国内集会担当；八戸工業大学）
本橋慶一（会計担当；東京農業大学）
山田明義（日本菌学会会報編集責任者；信州大学）

日本菌学会ホームページ
http://www.mycology-jp.org/

速報性の必要なイベント情報の掲載などは学会ホームページ担当（secretary-general@mycology-jp.org）までお問い合わせ下さい．その他，学会運営等に関しては，上記まで適宜お問い合わせ下さい．

日本菌学会では，随時，会員を募集しております．広い意味での菌類（地衣，粘菌なども含む）に興味をお持ちの研究者ならびに愛好家の方など，どなたでもご入会いただけます．学会への入会方法は，ホームページをご覧下さい．また，賛助会員についても募集しております．

編集後記

大きな寒波で我が家の周りは積雪が 1 m を超え，軒と地面が雪で繋がりました．シイタケとナメコを原木に植えようと思っていましたが雪に埋もれてしまい来月に持ち越しとなりました．このような厳しい環境でも林道や裏の川辺に行くと，日中氷点下に近い気温にもかかわらずエノキタケやワサビタケなどの姿を見ることができ，つくづくたくましいと思います．今号をもって編集委員としての任期を満了します．一連の編集作業等を経験し大変有意義でした．ニュースレターを通じて様々な情報発信がなされ，幅広い方々に広く菌学が普及することを期待しております．編集長ならびに編集委員の皆様，表紙の写真をはじめとする記事を書いていただいた方々に改めまして感謝を申し上げます．ありがとうございました．

（編集委員　牛島秀爾）

菌学会ニュースレター編集委員を 2 期（4 年間）つとめさせていただきました．この編集後記の執筆とそれに続く校正作業が最後の仕事と思うと，感慨深いものがあります．この間，私自身も拠点を九州に移動するなど，激動の 4 年間であっという間でした．数多くの幅広いテーマ・ジャンルの原稿に，会員のみなさまよりも一足先に目を通し，誤植等を可能な限り減らし読みやすい形にすることを心掛けてきました．至らない点もあったと思いますがご容赦いただけますと幸いです．編集委員をつとめたことで，情報交換や話題提供の場としてのニュースレターの重要性をあらためて認識しました．これからは一読者として，どのような記事が掲載されるのか楽しみに待ちたいと考えています．会員のみなさまにおかれましては，ご投稿を引き続きよろしくお願いいたします．

（編集委員　北出雄生）

Mycoscience
An open access journal for general mycology

Volume 66, Issue 1 (2025)
Available online at: https://www.jstage.jst.go.jp/browse/mycosci/-char/ja

Contents

FP Host preference, life cycle, and classification of species of Ochropsora, including species formerly classified in *Aplopsora* and *Cerotelium pro parte* (*Pucciniales*)
Yoshitaka Ono 1–44

FP Efficient generation of uridine/uracil auxotrophic mutants in homokaryotic *Cordyceps militaris* strains for constructing a food-grade expression platform
Minh Thi Trinh, Khanh-Linh Thi Bui, Hanh-Dung Thai, Tien-Dung Nguyen, Giang Thi Huong Nguyen, Kim-Dung Thi Ha, Hai-Yen Thi Nguyen, Duc-Anh Le, Huong Thi Thu Pham, Sang Van Nguyen, Tao Xuan Vu, Van-Tuan Tran 45–57

FP Validity of *Diderma microsporum* (Myxomycetes) as an independent species supported by morphological and phylogenetic analyses
Wen-Long Song, Ya-Jing Chen, Shu-Zhen Yan, Shuang-Lin Chen 58–66

SC Two-stage wood decay by *Grifola frondosa*
Taichi Motoda, Fu-Chia Chen, Daisuke Ando 67–71

FP A taxonomic re-evaluation of *Hymenostilbe mycetophila*, a hyperparasitic synnematous hyphomycete on *Favolaschia nipponica*, with *Kobayasiyomyces mycetophilus* gen. et comb. nov. (*Leotiales*)
Gen Okada , Etsuko Kurokawa, Izumi Sugimoto, Masayuki Nishida, Masahiko Miyai, Yoshiaki Kondo, Akira Hashimoto, Toshiya Iida, Moriya Ohkuma, Yousuke Degawa 72–87

FP Taxonomic reevaluation on *Pyrrhoderma* (*Basidiomycota*, *Hymenochaetales*) and reclassification of *Pyrrhoderma* species based on phylogenetic and type studies
Tsutomu Hattori , Mitsuteru Akiba, Yuko Ota, Ahmad Mohd-Farid, Bee-Kin Thi, Su-See Lee 88–108

FP A new genus and species of *Phialocephala*-like fungi with cordiform conidia in *Chaetosphaeriaceae*
Yu-Hung Yeh, Yao-Moan Huang, Roland Kirschner 109–115

N Root-associated ectomycorrhizal fungal communities in and around aggregated retention patches left in logged areas of *Abies sachalinensis* planted forests
Keisuke Obase, Satoshi Yamanaka, Kenichi Ozaki 116–119

RV Review FP Full Paper SC Short Communication N Note

日本菌学会賛助会員

（株）秋山種菌研究所
〒 400-0042　甲府市高畑 1-5-13
Tel 055-226-2331　Fax 055-226-2332

（株）キノックス
〒 989-3126　仙台市青葉区落合 1-13-33
Tel 022-392-2551　Fax 022-392-2556

（株）千曲化成
〒 389-0802　千曲市内川 1101
Tel 026-276-3355　Fax 026-276-6182

TK 製薬（株）
〒 337-0024 埼玉県さいたま市見沼区片柳 412-1
Tel 048-686-1828

（一財）日本きのこ研究所
〒 376-0051　桐生市平井町 8-1
Tel 0277-22-8165　Fax 0277-46-0906

（株）富士種菌
〒 400-0226　南アルプス市有野 499-1
Tel 055-285-3111　Fax 055-285-3114

ホクト（株）
〒 381-0008　長野市大字下駒沢 800-8
Tel 026-296-3211　Fax 026-296-1465

（株）北研
〒 321-0222　栃木県下都賀郡壬生町駅東町 7-3
Tel 0282-82-1100　Fax 0282-82-1119

三菱ケミカル（株）
〒 227-8502　横浜市青葉区鴨志田町 1000
Tel 045-963-3601 Fax 045-963-3976

森産業（株）研究開発部
〒 376-0051　桐生市平井町 8-1
Tel 0277-22-8168　Fax 0277-40-1557

（株）雪国まいたけ　研究開発部
〒 949-6695　南魚沼市余川 89
Tel 025-778-0153　Fax 025-778-1282

（2025 年 2 月現在）

投　稿　案　内（令和３年４月１日改訂）

日本菌学会ニュースレターは，会員への様々な情報提供と会員相互の交流を図ることを目的に，年４回（1月，3月，7月，9月）発行されます．学会運営サイドからの報告や最新情報のアナウンスとともに，会員からの投稿による菌類全般に関する資料，研究レポート，報告，紹介，随想，解説，表紙写真（線画・イラストを含む）などを掲載します．投稿にあたっては，次のことを遵守してご執筆下さい．

1. 原稿はワープロソフト（MS Word，テキストエディタなど）を用い，A4 版用紙を縦長に，上下左右を 2.0 cm 以上空けて，横書きで作成して下さい．図表・写真についても，可能な限り別の電子ファイル（EPS，TIFF，JPEG，BMP などの画像ファイル，あるいは Adobe Photoshop (PSD)，Illustrator (AI)）をご用意下さい．
2. 原稿は，電子メールの添付ファイルにてお送り下さい．投稿に際しては，必要事項を記入した著作権譲渡書および投稿票を添付して下さい．電子メール投稿時の標題は，NL-####（#### は投稿者の姓のローマ字表記；山田なら NL-Yamada）として下さい．電子ファイルが比較的大容量の場合には，送付方法について予めご相談下さい．投稿料は不要です．
3. 原稿作成にあたっての注意点：できるだけ簡潔な文章で作成して下さい．口語的な表現，難しい言い回しや一般的でない漢字，特殊な専門用語は避けて下さい．**アラビア数字および英字は半角**に統一してください．**句点は全角ピリオド「.」，読点は全角カンマ「,」，日本語の文中での括弧は全角「()」で入力**して下さい．いずれの原稿も，体裁や文体の変更，内容の修正，投稿雑誌の変更などについて，編集委員会から指示がなされる場合があります．
4. 資料・研究レポートは原則として刷り上がり５頁（原稿ベースで 10 枚程度）以内，紹介・随想・解説は刷り上がり３頁（原稿ベースで６枚程度）以内とします．超過頁の可能性がある場合には，予め編集委員長までお問い合わせ下さい．
5. 図表（写真を含む）は白黒で印刷されますが，ホームページ掲載分（PDF 版）はカラー対応が可能です．写真の場合には，できるだけカラー版をご用意下さい．図表の枚数は特に制限しませんが，本文と図表を合わせて制限頁内に収まるようご調整下さい．原稿の右欄外に，図表の挿入位置を示して下さい．また，誌面の都合ですべての図表を掲載できない場合があります．
6. 資料・研究レポートは幾つかの節に分け，太字の小見出しをつけて下さい．菌のリストを含む原稿の場合，原稿に使用した標本は博物館等に寄託して下さい．また根拠にした図鑑名を示して下さい．引用文献は最小限に留め，例に従って記述して下さい．
7. 和名は学会推奨和名を使用してください．また，新和名を提唱する場合は，データベース委員会の提言・勧告（日菌報 49:99–101, 2008）を参照して下さい．
8. 編集委員会による編集・校正後，著者校正をお願いします．受け取り後，48 時間以内に校正しご返送下さい．別刷りは原則的に受け付けておりませんが，ご希望の方は編集委員までお問い合わせ下さい．
9. 支部，談話会，同好会などの会合，研修会，観察会の開催予定，各地の博物館などで開催される展示会などの情報も随時受け付けます．ただし，各号発行日の１ヶ月前までに到着するようご注意下さい．
10. 掲載された資料，研究レポート，報告，紹介，随想，解説，表紙写真，その他の著作権は，オンライン配布を含み，本学会に所属します．
11. 記事は原則として，クリエイティブ・コモンズ表示・非営利（CC BY-NC 4.0）の条件下で掲載されます．ただし，著者全員の合意があれば，表示・非営利・改変禁止（CC BY-NC-ND 4.0）も選択できます．
12. 引用文献の表記等その他詳細は，日本菌学会会報の投稿規定，投稿細則に準じます．

引用文献の表記例（ローマ字アルファベット順）

i. 雑誌

Hyde KD, Chalermpongse A, Boonthavikoon T (1990) Ecology of intertidal fungi at Ranong mangrove, Thailand. Trans Mycol Soc Jpn 31:17–27

池ケ谷のり子・後藤正夫 (1988) シイタケ菌の子実体形成に及ぼすフェノール物質の硬化 . 日菌報 29:401–411

ii. 単行本

全体引用 :

Domsch KH, Gams W, Anderson T-H (1980) Compendium of soil fungi, vol 1. Academic, London

原田幸雄 (1993) キノコとカビの生物学 . 中央公論社 , 東京

部分引用 :

Cooke RC, Rayner ADM (1984) Ecology of saprotrophic fungi. Longman, London, pp 305–320

渡邊恒雄 (1993) 土壌糸状菌 . ソフトサイエンス社 , 東京 , pp 82–109

章の引用 :

Sagara N (1992) Experimental disturbances and epigeous fungi. In: Carroll GC, Wicklow DT (eds) The fungal community, 2nd edn. Marcel Dekker, New York, pp 427–454

徳増征二 (1983) 落葉生菌類 . 菌類研究法 (青島清雄ら編). 共立出版 , 東京 , pp 107–116

iii. 国際学会の要旨集あるいはプロシーディングス

Kirkpatrick B, Smart C (1994) Identification of MLO-specific PCR primers obtained from 16S/23S rRNA spacer sequences. 10th International Congress of the

原稿の送付先
日本菌学会ニュースレター編集委員長　小泉敬彦
〒 156-8502　東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学生命科学部
Tel: 03-5477-3191
E-mail: tk208124@nodai.ac.jp

日本菌学会ニュースレター投稿票

メール本文または添付ファイルにて投稿票をお送り下さい.

題名：

投稿者名：

連絡先：〒

電話：

電子メール：

投稿区分（○ で囲んで下さい）：資料　研究レポート　報告　紹介　随想　解説　書評　表紙写真（イラストも含む）
その他（　　）

その他，要望等：

※ご投稿いただいた記事は原則として，クリエイティブ・コモンズ表示・非営利（CC BY-NC 4.0）の条件下で掲載されます．ただし，著者全員の合意があれば，表示・非営利・改変禁止（CC BY-NC-ND 4.0）も選択できます．表示・非営利・改変禁止をご希望される場合は「その他，要望等」欄にその旨をご記入ください.

日本菌学会ニュースレター 2025 年 2 号

令和 7 年（2025 年）3 月 1 日

編集者　小泉敬彦
発行人　細矢　剛
印刷所　勝美印刷株式会社
〒 113-0001　東京都文京区白山 1-13-7
アクア白山ビル 5 階
Tel. 03-3812-5201（代表）
発行所　一般社団法人　日本菌学会
〒 113-0001　東京都文京区白山 1-13-7
アクア白山ビル 5 階